

第88回国民スポーツ大会及び第33回全国障害者スポーツ大会の招致に関する決議

国民体育大会は、我が国最大のスポーツの祭典として、広く国民の間にスポーツを普及し、国民の健康増進と体力の向上を図るとともに、地方のスポーツ振興と地方文化の発展に大きく寄与してきた。また、全国障害者スポーツ大会は、障害のある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与してきた。

本県においては、昭和48年に本土復帰を記念する特別国体として「強く・明るく・新しく」をスローガンに「若夏国体」が開催されたことを契機に、競技会場の新設や改修及び関連道路の建設等が進められ、復帰後の本県振興発展の礎を築いた。昭和62年には「きらめく太陽ひろがる友情」をスローガンとして、第42回国民体育大会「海邦国体」及び第23回全国身体障害者スポーツ大会「かりゆし大会」が開催され、本県の競技力の向上等に大きな役割を果たした。

その結果、空手男子形で国民体育大会3連覇を果たした喜友名諒選手が令和3年に開催された東京オリンピックで金メダルを獲得するなど、各競技における県勢選手の活躍は、県民に勇気と自信を与えるとともに、次世代を担う子供たちに夢と希望を授け、スポーツには人の心を動かす力があることを改めて実感させた。

再び国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会を招致することは、さらなるスポーツの振興はもとより、障害の有無や年齢、性別及び国籍等を問わず、誰もがスポーツに親しんでもらうためにも極めて有意義である。

さらに、地域・経済の活性化や観光振興など本県の持続的発展に大きく貢献し、我が国の南端のスポーツ交流拠点として年間を通じたスポーツコンベンション開催の実現を図ることなど、本県が目指す「スポーツアイランド沖縄」の形成にもつながるものである。

よって、本県議会は、令和16年の第88回国民スポーツ大会及び第33回全国障害者スポーツ大会が本県で開催されることを強く要望する。

上記のとおり決議する。

令和5年3月30日

沖 縄 県 議 会